



第2回光市議会定例会が12月7日から開会されました。冒頭、末岡市長が所信表明を行いましたので、その概要をお知らせします。

私は、旧光市の市長として3期10年間、「公平・公正」「改革・刷新」を政治理念に、『市民一人ひとりが豊かさで誇りを実感でき、光市に住んでよかったと思える元気なふるさとづくりに取り組んできました。この間、右肩上がりの経済成長が終焉する一方で、地方分権社会への移行や少子高齢化の進行、財政の硬直化など、時代は大きく変化し、これからのまちづくりには、地域固有の文化や個性、人と人との和、地域と地域の和など、地域コミュニティの形成を重視した「人が生き続けていくための理想的な生存空間

光る個性 地域の和 人と自然にやさしい 生活創造都市を目指して

キーワードは「改革」「再生」「創造」

の創造」が求められています。そのためには、都市経営の手法、すなわちまちづくりの公式を変えていくことが重要であり、その公式を解くキーワードは「改革」「再生」「創造」の3つであると考えています。

改革

このたびの合併協議では、行財政改革が大きなテーマとなり、特別職の取り扱いや議員の在任特例の不適用、合併特例債の発行抑制、各種事務事業の調整など、一つひとつ徹底した見直しを行ってきました。

しかし、改革に終わりはありません。このため、行政評価によるマネジメントサイクルの確立など、「自ら考え、自ら決定し、自ら責任を負う新たな行政システムづくり」を基本理念に、今後、「行政改革大綱」を策定し

たいと考えています。また、将来にわたって持続可能な財政基盤の確立を図るため、あわせて「財政健全化計画」を策定したいと考えています。

こうした改革を着実に推進するには、市民の皆様の理解と協力が不可欠です。極めて厳しい行財政環境の中にあつて、行政と市民と地域との関わりを見直し、それぞれが担うべき役割を自覚し、責任を持つことが必要な時代になっていきます。こうした共通認識に立ち、何もかも行政に「というのではなく、地域のできる」とは地域で考え実践するなど、市民の皆様にも役割分担をお願いしたいと考えています。同時に、市民の皆様の理解と協力を得るには、何よりも行政が変わる必要があります。職員意識改革が極めて重要です。このため、「人材育成基本計画」の策定や「人事評価システム」の研究を

進めつつ、私を先頭に、職員一人ひとりが問題意識や経営感覚、強い使命感と情熱を持って、市民サービスの二層の向上に努めたいと考えています。

再生

国における構造改革特区や地域再生構想など、国と地方の枠組みが大きく変革する中で、地方自治体には、21世紀を生き抜くための自主的・主体的なまちづくりへの取り組みが一層求められています。

このため、従来の考え方や枠組みにとらわれない大胆な発想の転換を図り、「縦割り行政」から分野や組織を越えた施策の融合と連携を強めることにより、「既存ストック」や「地域の有位性」を活かした地域の再生が必要であると考えています。

また、「こつしたまちづくりを實踐していくには、市民との真の「共創・協働」が不可欠です。これまで日本社会を支えてきた豊富な知識と経験を持った「団塊の世代」が、今後、職域から地域へとシフトします。「こつした人々の動きをまちづくりに活かすことができるか」とが、これからのまちづくりの成否を決める重要な「カギ」になると考えています。

私は、合併を機に、市民との「共創・協働」の取り組みをさらに進め、新設した「地域づくり推進室」を中心に新たな時代の協働関係を構築すると

ともに、市民と行政のパートナーシップにより、地域と一体となって再生への知恵を出し、まちづくりに積極果敢にチャレンジしたいと考えています。

創造

今日の成熟した社会の中にあつて、まちづくりは、「ハードからソフト」へ、「量から質」へと一層の転換が求められる一方、これまで人々が見失いがちであった心の充足や幸せを実感できる「生存空間」の創造が重要となっています。私たちは、これまで便利さ

や物の豊かさが、「幸せ」だと信じ、都会にこそ幸せがあると錯覚した時代もありましたが、地方には、都会のコンビではない良さと素晴らしさがあり、豊かで幸せな暮らしがあります。光・大和の両地域には、室積・虹ヶ浜海岸や石城山、島田川などの豊かな自然、石城神社や海商通りなどの特色のある歴史・文化資源、2つの総合病院やあいはら光などの充実した保健・医療・福祉、冠山総合公園や伊藤公記念公園など、多様な資源が存在しています。また、薬品・鉄鋼の日本を代表する企業をはじめ、ソフトパークや周防・大和工業団地など、多様な産業の高度化が図られており、農業や水産業の分野でも地場産品の創出やブランド化など、地域活力の向上や地域産業の活性化への素地も整っています。

私は、「こつした両地域の有形・無形

の財産を積極的に活用し、足りないものは補い合い、さらに資源の付加価値を増していけば、必ずや全国の範となるまちづくりができるものと確信しており、市民の皆様が心から幸せを実感でき、誇りと愛着の持てる『海・山・川に抱かれた心和むふるさと光』が創造できるものと考えています。

以上、3つのキーワードに沿った新しいまちづくりの考え方を申し上げますが、これらを実現するには、情報の公開や情報の共有を進め、市民への説明責任の徹底を図るとともに、市民と行政が一体となつたまちづくりが大切であり、そのための具体的な施策やシステムを構築する必要があります。こつしたことから、新市建設計画の具現化を図り、時代の変化や合併後の新たな課題に的確に対応するため、新たなまちづくりの指針となる「新市総合計画」の策定に、速やかに着手したいと考えています。

新たなまちづくりは緒に就いたばかりで、病院問題や環境問題、教育や福祉、行財政改革の推進など多くの課題が山積していますが、こつした課題に的確に対応しつつ、市民の皆さんと心を一つにして、『光る個性 地域の和人と自然にやさしい生活創造都市』の実現に向け全力を傾注してまいります。何とぞ、温かいご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

